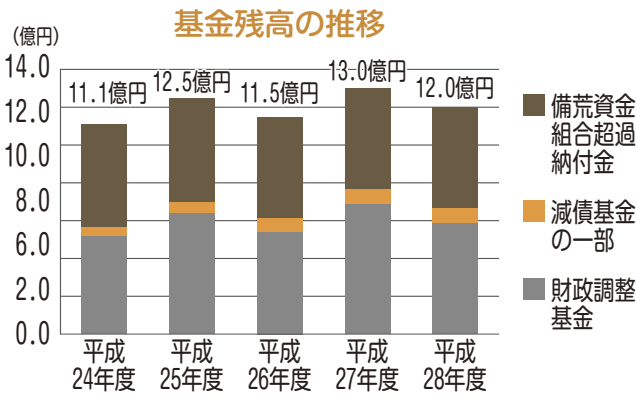


市の預金や借金の状況

市の預金(基金)

市は、財源の調整を図るほか、特定の事業に使用するために、基金を積み立てています。

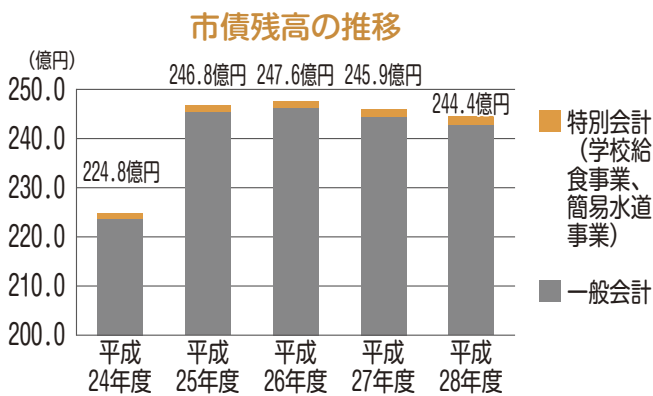
このうち、自由に使うことができる基金などは、『財政調整基金』、『減債基金の一部』、『北海道市町村備荒資金超過納付金』の3種類で、これらの平成28年度末の残高は、収入の不足分を補うために、財政調整基金の取り崩しを行ったため、前年度に比べ1.0億円減の12・0億円となりました。



市の借金(市債)

市は、道路や公共施設など、将来にわたって利用される大規模な施設を整備するときに、国や銀行から長期間で返済する資金を借り入れており、これらの借金を市債といえます。平成28年度末の市債残高は、道路整備のために借り入れた資金の一部について返済を終えたことなどから、前年度に比べ1.5億円の減少となりました。

なお、一般会計における公債費(借金の返済額)は26・2億円となり、支出全体に占める割合は12・6%で、前年度比で0.6ポイントの減少となりました。

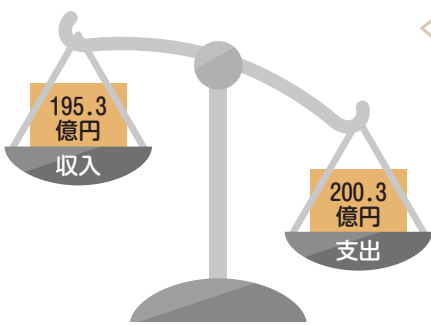


◆◆平成29年度の予算はどうなっているの◆◆

平 成29年度の一般会計当初予算では、200・3億円の支出に対して、195・3億円の収入しか見込めず、5億円の財源不足が生じました。

この財源不足については、全額を基金などの取り崩しで対応する予定であるため、今後、財政が好転せず、財源不足が解消されない場合には、平成29年度末の基金残高は7.0億円まで減少することとなります。平成29年度の財政運営にあたっては、適切に収入を確保することはも

5億円の財源不足



もちろん、不要な支出がないかこれまでにチェックを重ねるなど、限られた財源の有効活用を図ります。

今 後についても、高齢化の進展などによる社会保障費の増加に加え、小・中学校施設の耐震化や改修、老朽化した公共施設の整備、インフラの長寿命化など、さまざまな事業が控えており、多くのお金が必要となります。

また、市民の皆さんから納めていただく税金は、人口の減少が進んでいることから、今後大きく増加することは見込めず、国から交付される地方交付税についても、国の施策状況によっては減少する可能性もあり、市を取り巻く環境は、いっそう厳しさを増すことが予想されます。

市

民の皆さんが必要とするサービスを安定的に提供していくため、事業の効率性を常に検証し、改善していくとともに、社会情勢や時代の変化などにより不要となったサービスの見直しを図り、必要性の高い大型事業に順次取り組むなど、計画的で健全な財政運営が図られるよう努めます。